

2018年度 取締役会の実効性評価と今後の対応について

当社は、取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的として、2018年度の実効性評価（自己評価）を実施いたしました。その概要と今後の対応についてお知らせいたします。

1. 対象者： 2019年3月末時点で現任の全取締役（9名）および全監査役（4名）

2. 評価の方法について

- ✓ 質問票の各項目については、2017年度の質問票（第三者評価）と評価・分析結果を踏まえ、担当役員（※1）および取締役会評価事務局（※2）が、集計を担当する外部コンサルタントと相談の上、決定いたしました。
- ✓ 取締役および監査役に、上記により決定した質問項目（※3）を配布し、全員から回答を得ました。
- ✓ 外部コンサルタントが回答結果を集計後、取締役会評価事務局が簡易分析および取りまとめを行い、担当役員が取締役に報告しました。
- ✓ 報告の内容を取締役会で十分検証し、今後の対応について下記4.に記載の通り方向性を決定いたしました。

3. 分析・評価について

分析・評価の結果、当社取締役会の構成や運営状況、社外取締役に対する支援体制は、全般的に高く評価されており、当社取締役会が概ね適切に機能し、実効性が確保されていることを確認しました。

また、指名・報酬委員会の構成や運営状況は、概ね適切であることを確認しました。

社外取締役・監査役の議論の貢献は高く評価されています。社外取締役と監査役間の十分な協働体制、コミュニケーションにも改善がみられ、概ね良好に行われていることを確認しました。

昨年度に課題として認識されたリスクを認識し管理する仕組みについては、十分な議論がなされ、改善がみられました。

一方で、今後、検討すべき下記の課題を認識しました。

- ・ サクセッション・プランについては、検討をはじめているものの、引き続き、経営トップ育成を念頭においた長期人材育成の仕組みを推進する必要があること
- ・ グローバルなリスク管理体制を引き続き強化すること
- ・ 社内における多様性の推進については、改善の余地があること

4. 今後の対応について

上記分析・評価結果により認識された課題に対して、今後、以下の通り取り組むことで、さらに当社取締役会の実効性を高めるよう努めてまいります。

- サクセッション・プランについては、引き続き検討を行い、議論を深めてまいります。
- グローバル経営を支える重要なインフラと考えられるリスク管理体制については、引き続き強化を進めてまいります。
- 多様性の推進については、継続的に取り組んでまいります。
- 経営・事業のステージの変化に伴い、取締役会の議論の内容も変化すると考えられるため、取締役会の実効性に関する評価を継続的に実施してまいります。

なお、2019年度は、取締役会評価（自己評価）の実施を予定しております。

以上

(※1) 財務経理・I R担当取締役

(※2) 財務経営管理室

(※3) 取締役会評価の質問票の大項目

1. 取締役会の運営状況
2. 取締役会の機能・役割
3. 取締役会の構成
4. 指名・報酬委員会の構成と役割
5. 指名・報酬委員会の運営状況
6. 社外取締役の支援体制
7. 監査役の役割・監査役に対する期待
8. 投資家・株主との関係